

TCS インターン体験記

法学部 3 年 佐藤大起

はじめまして！法学部 3 年生の佐藤大起と申します。

私は今夏、韓国のソウルにある TCS（日中韓三国協力事務所）で、1 カ月間のインターンシップに参加してきました。

TCS は、日中韓三国の平和と繁栄を促進するため、2011 年に設立された国際機関です。まだまだ知名度の低い国際機関ですが、インターンシップでは「海外で働く」という貴重な体験を積むことができました。

今回は、その TCS でのインターンシップについて、実際の様子を紹介していければと思います。

● インターンシップに参加しようと思ったきっかけ

私は 2023 年の夏ごろから約 1 年間、北欧のスウェーデンという国に留学しました。私が住んでいた学生寮には様々な国籍の留学生が集まっていて、同じフロアには中国と韓国出身の留学生たちもいました。同じ北東アジア出身ということもあってか、私たちはすぐに仲良くなりました。

毎日のように色々なテーマについて腹藏なく話す中で、私が感じたのは、アジアから遠く離れたヨーロッパで、お互いフラットな立場で話していれば互いのことが理解できるのに、どうしてそれぞれの国の中では、歴史問題によるいざこざで互いを非難ばかりしてしまうのだろう、というものでした。

ヨーロッパで 1 年間を過ごしたことで、日本をはじめとしたアジアの良さを再認識し、自分もひとりの北東アジア人として、三国の平和的発展のためにできることはないか。そんな時に、TCS がインターンシップを募集しているのを見つけ、応募に至りました。

● インターンシップの内容

TCS でのインターンシップは、毎日が発見の連続で、非常に充実していました。

1 日のルーティンとしては、毎日朝 9 時に光化門近くのオフィスに出勤してから、インターン生に割り振られたタスクをこなしたり、TCS の主催するイベントに同席させていただくといった形です。

タスクにも様々な種類がありました。その中でも私が一番印象に残っているのは、次年度の日中韓農村指導者プロジェクト（TREP）に向けて、一から原案を起草したことです。これまでイベントの企画を一から立てた経験はなかったので、最初は戸惑いでしたが、メンターの方々の支えもあって、なんとか形にすることができたときは達成感がありました。

私は初め、TCS の国際機関という名称から、業務内容も何かスケールの大きなことをしているんだろうな、という漠然としたイメージを持っていました。しかし実際にプログラムの

立案に携わってみて、その根底には外部との地道な交渉があったりと何事も目立たない仕事の積み重ねで成り立っているのだと改めて気づくことができました。

そのような地道な作業を通して、自分の仕事が少しでも日中韓交流の役に立てている、そう実感できる瞬間が、このインターンシップの最大の魅力だと思います。

「自分もひとりの北東アジア人として、三国の平和的発展のためにできることはないか」そんな動機から TCS のインターンシップに参加した私ですが、一か月という期間を通して、本当に多くの貴重な学びをたくさんの方々から得ることができました。

「百聞は一見に如かず」ということわざがあるように、実際に体験してみないとわからないことがあります。もし今、あなたが日中韓のために何かできることはないか、と考えているのであれば迷わず TCS のインターンシップに参加してみるべきです。

TCS には「日中韓のこれから」を考えるすべてがそろっています。

